

1999.12
No.64

RECYCLE
Design



月刊

リサイクルデザイン

地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい

リサイクルデザインは、横浜市内の資源回収業者の組合(139業者が加盟)による
市民と組合員にリサイクルの情報・回収の実情を伝えるための情報誌です

特集

第5回 リサイクルデザイン フォーラム

集団回収の真実



今回は去る一月一四日に行った、
第五回リサイクルデザインフォーラム
の内容を特集してご報告します。
スペースの都合でパネラーの方の発
言を主体に構成し直したため、掲載
できなかった部分がかなりあること
を、あらかじめご了承ください。

山本 このフォーラムも五回目とな
りました。さて今年はどうしようか
という話をしているときに、私も横
浜市民で、家内は一年間集団回収の
世話役をしていましたが、それでも
集団回収についてよくわからないこ
とがいっぱいあるのではないかと

思ったわけです。例えば、「ついこの間
までは古紙がいっぱい余っていて安
いと言われていたのに、今度はどう
も足りないらしい。足りないのにな
ぜ値段は上がらないんだ」とか、「以
前は、新聞とチラシを分けると言っ
ていたのに、今度は一緒にいいと言
う。本当のところはどうなの？」と
いうようなことを誰もが知りたいの
ではないかというところで、『集団回収
の真実』というタイトルにしました。
疑問にどこまでお答えできるかわか
りませんが、できるだけざっくりば
らにお話いただきたいと思っております。
お一人ずつ問題提起をしてい

●パネラー(写真右より)

坂口範子/旭区のリサイクルを進める会(アリ)代表(市民)
菱川実江子/横浜市立丸山台中学校(市民)
斉藤初太郎/古紙共済会(回収業者)
須長利行/興栄紙材株式会社 代表取締役(古紙問屋)
石川美枝子/横浜市環境事業局事業推進部減量推進課長
(行政)

江尻京子/ゴミニスト・ゴミ問題ジャーナリスト

●コーディネーター(写真左)

山本耕平/株式会社ダイナックス都市環境研究所
代表取締役所長



リサイクルデザインフォーラム
横浜市資源リサイクル事業協同組合

ただきながら進めていきましょう。

坂口 集団回収といったら子ども会ですね。『集団』といっても、指定の場所やマンションの階段の下に置いたり、一軒一軒の玄関先に出したりといういろいろですが、共通して言えるのは、そこに人と人とのつながりがなくなってきたことですね。以前、私が子ども会に関わっていた時は、リヤカーを出して子どもと回収して、子どもは、「おはようございます。子ども会の集団回収です」「ありがとうございます。また来月もお願いします」と声をかけた。そこには会話がありました。地域の中で子どもたちが育っていたので、環境教育をやるうなどと考えなくても、「僕たちが集めた紙はどうなるの？」というような意識付けがあったわけです。でも今の子ども会の集団回収は、お金を集めるためだけの申請代行みたいな仕事になってしまつて、そこには子どもが家の赤字額はいくらか、というような小さなサイフはよくわかるんですよ。でも横浜市や日本の経済のような大きなお金の流れはつかみにくい。だから雑誌が逆有償になったと聞くと即座に、「それならうちの子ども会は雑誌集めません」というこ

とになってしまふ。

最近、ゴミの回収拠点でゴミとして出される雑誌が非常に多くなつたことにお気づきになりませんか？ゴミとして出すと一キロ当たり三八円、横浜市全体だと一般会計の約四・七％に当たる税金を使って処理していただくわけですが、それは見えにくいですよ。そんな大きなお金を使つていても、二割は灰として残つてしまふ。その灰を埋めている神明台処分場も平成一八年度で一杯になるのでは、と言われる中で、地域の集団回収の力を強くしていかなないと、横浜市の財政を圧迫する一方です。「私たち市民がしっかりしなければ」と本当に思います。

先ほどお話ししたようにゴミ処理経費は一キロ三八円かかっていますが、集団回収の奨励金は一キロ団体に三円で業者に二円。合計たつた五円です。回収してリサイクル率を増やし、税金でまかなう部分を少なくすれば、もっと私たちの福祉や教育にたくさん使つていただくことができます。暮らしやすくなるのではないのでしょうか。そのためには、私たち自身が集団回収の力を強く鍛えていかなければと思います。

菱川 学校では、プリント類・業者

からのカタログ・教育委員会からの通知……といった大量のゴミが出ますが、一三年前、ふと、「こんなに古紙が出て本当にもったいない。これを資源として回収できないのかな」と思ったんですね。そこで前任の学校で、学校から出る紙を分別して回収してもらうシステムを作り、まず職員室から出る紙類を段ボールに入れていただくことから始めました。それまでもゴミ箱に捨てればよかったので、「面倒だ」という声も上がりました。しかし次第に古紙として出される量が多くなつてきて、二ヶ月、三ヶ月と経つにつれ、会話の中に「資源」という言葉が頻繁に出るようになり、職員の意識が変わつてきました。教室にも簡単な古紙回収箱を置くようになりました。段ボール箱に「古紙回収箱」と生徒に書いてもらった紙を貼つてゴミ箱の横に置き、教室から出る紙類をゴミにしないでそちらに入れようという活動ですが、私が受け持っていた美化委員会では活動を進めていきました。生徒の変容ぶりがものすごかったですね。『資源』という言葉がひんぱんに出るようになり、職員が両面印刷しないと生徒にしかられる。「両面印刷したら、資源は半分で済むんだよ」

「テストのプリントも両面印刷したら」という声が出るほどに生徒が育っていきました。紙を糸口としてさまざまな地球環境問題や人間について考える学習をしてきました。一〇年経過した今では、生徒が環境関係の大学に進学したという知らせも聞くようになりました。

うれしかったのは、いじめがなくなったこと。生徒たちは、「先生、本当にうちの学校っていいじゃないね」と言つて卒業していきました。これも平和や人権にふれるような奥行きのある環境教育の成果なのかなと思っています。古紙回収を通して、いろいろなところに成果が表われたと感じているところです。

回収をしている学校はまだ少なく、転動していった職員が、「どこに回収を頼めばいいの」とよく問い合わせてきます。転動先で古紙を分別する箱がないと、それがストレスになるというのです。一校だけでも古紙が大量に出るのだから、市内の全校で大量に出ると思います。一教員の力では非常に難しい問題なので、行政の力もお借りして、ぜひ学校関係の集団回収のシステムを作っていきたいと思っています。行政の方には、学校の古紙回収システムを義務付け

る施策を講じていただきたいと思います。

済藤 古紙はここ七、八年、相場の変動が非常に激しくなり、雑誌に関しては逆有償になる時代が来ましたが、でも逆有償だからゴミにするというのとはもったいないので、行政にお願ひして奨励金をいただき、経費を補いながら回収を継続しています。



▶ 右から坂口さん、斎川さん、済藤さん

集団回収量は平成八年をピークに平成一〇年は減っています。とくに雑誌類はピーク時の四〇%以上減り、減った分のほとんどがゴミになっているわけです。そのゴミを何とか資源にしようと思恵を絞っているのですが、やはり業者だけでは解決できない問題で、市民と行政にもう少しご理解いただいて、回収率を上げていきたいと思っています。

平成九年は古紙の余剰で問屋さんが在庫しきれなくなり、赤字覚悟で海外へ輸出しました。メーカーも古紙の利用を増やす努力をされまして非常に混入率が高まってきたため、逆に今古紙が足りなくなってきたというのです。足りないけれど価格は上がらず、回収コストが出ないので業者は足踏み状態で困惑しています。対策として、回収経費をできるだけかけない新しい回収方法がないか、組合で検討しているところです。

須長 新聞・チラシの混入問題の結論として、一〇月七日の新聞に、「混ぜて出してください」と掲載され、その理由として「技術改革が進んで分別の必要がなくなりました」と、あっさり書かれていたのを読まれた方もあるかと思いますが、その背景には、問屋と製紙会社、用紙大手メーカー

間での議論があったのですが、今回の結論を導いたのは新聞社の要望です。リサイクルしやすくするために、分けられない方が皆さんの協力を得やすい環境ができるという理由でした。チラシの光沢は白くする作用がある薬剤なので、再生紙の白色度を上げるのに非常に有効な成分を含んでいます。これがかつてはヘドロとして静岡などでは田子の浦に流していたのですが、技術革新して光沢剤として使うようになったのです。でも、新聞紙とチラシは分別しなくていいとなると、ダイレクトメールとか子どもさんの教科書のようなチラシではない紙を、分別せずごちゃごちゃに出されることが私たちは怖いですね。

製紙会社から私たちへの支払いは、キャッシュではなく手形です。手形は現金が落ちるまで何ヶ月か待つのですが、多くの製紙会社で四ヶ月前後、長いところで五ヶ月待たないと手形は現金にならない。それを銀行に持っていく、自分の信用でお金に換えてもらうことを割引と言い、その際銀行から金利を取られます。金利を差し引いた中から回収業者さんや運送会社、従業員に賃金をお支払いますが、その合計がキロ当たり

七円五一銭というのが、全国各地の古紙問屋へのアンケート調査からわかった古紙問屋の経費の実態です。このうち四二%が人件費、二〇%以上が運賃で、自分の商売に使えるのは三〇%以下という非常に厳しい経営状況です。ふつう問屋だったら売れないものは仕入れませんが、行政のテーマはゴミ減量、だから受け入れだけはノンストップです。処理したものは出荷しないといけないのですが、メーカーさんは原料として必要なものしか買いません。残った古紙は輸出に回します。輸出量は九八年度が五六万トン、九七年度は三一万トン、九六年度は二万トン。この著しい輸出入の増減は、余剰古紙量の差です。アジアの人から見れば、「日本は国内のゴミを余った時だけ売りにくる。こちらが欲しい時には売らない。いいかげんだ」ということになってしまふのです。

石川 横浜市のゴミの排出量は、現在年間一五九万トン弱です。家庭ゴミについては〇・二%ちょっとですが、減っております。反面、学校・事業所から出る事業系のゴミは、景気低迷にもかかわらず残念ながら増えています。これはこれまで家庭ゴミにまぎれ込こんでいた事業系ゴミが

有料化の徹底により移行した部分もあるのですが、全体では微増という形になっています。また、OA化が進み、紙ゴミの量がゴミの組成の四〇%強という中で、ゴミをどう減量化・資源化していくのが、私たちの仕事です。

基本的な考え方としては、まずゴミの発生を抑制すること。「いっぱい作って、いっぱい使って、いっぱいゴミにして、リサイクルしましょう」という前に、横浜市ではまずゴミの総量を減らすような市民個々の生活スタイル、事業者の企業活動といったことを提唱しています。具体的には、市民の方にはゴミの発生抑制を、事業者の方には自主回収してリサイクルを進めていただくことを、お願いしております。資源集団回収はその一つの有効な方法で、お互いの信頼関係や資源を大切にすることの中で発展してきたこのシステムを、維持・充実させていくために積極的に各地域で取り組んでいただき、それに対する支援、いわば潤滑油というような形で奨励金制度を行っております。

二〇一〇年までに資源化率三〇%を達成しようという目標を立てているのですが、残念ながら現在のところ



◀ 左から江尻さん、石川さん、須長さん

ろ一六・五%、このままでは目標達成が厳しい状況です。家庭ゴミの約一割に当たる一〇万トンがゴミ化しないで資源化できている状況なのですが、古紙価格の低迷に伴い平成九年五月頃からの雑誌の逆有償によって、平成八年には二万一〇〇〇トンだったものが、平成九年には一万四〇〇〇トンと、前年比で約七〇〇

トンの雑誌が回収されずにゴミ化したという状態になっております。雑誌が逆有償になり、集めれば集めるほど赤字になってしまおうという状況を何とか食い止めようと、昨年一月から緊急処置として雑誌のみキロ当たり四円で支援措置をしておりますが、一度その地域で雑誌の回収システムが壊れてしまうと、なかなか回復しません。けれども、最近では雑誌や新聞は状況が変化して在庫が不足しつつあり、脱墨や古紙混入の技術の開発・他用途化などにより、受け入れ状況が整いつつありますので、各地域でもう一度取り組んでいただきたいというのが私たちの願いです。

また、全体的には市民の分別排出に対する意識は年々高まっているものの、一方ではステーションにゴミとして出される新聞・雑誌がまだ相当量あります。啓発・PRを徹底させて、そういったものをきちんと資源化ルートにのせていくことが大きな課題になっております。

山本 分別についていろいろ質問が寄せられています。オフィス古紙は雑誌に分類し、雑紙の中でもコピー用紙は分別する。横浜市の場合、家庭からコピー用紙が出たら雑誌扱い、雑誌に混せて集団回収で取ってくれ

ないところは焼却工場に行くということではないのでしょうか？

石川 そうですね、残念ながら雑誌だけではなく、新聞・雑誌・段ボールの三品だけを見ても、本来資源化できるものがゴミになっています。横浜市全体で紙の発生量が六〇万トン程度で、そのうち約六割の三万五万トンが家庭系。事業系が二五・二六万トンと推計しておりますが、どの程度回収できているかというと、集団回収で一〇万トン、新聞店回収がほぼ七・八万トンです。家庭系古紙には地域のリサイクル活動を支援する目的の奨励金という形で出しています。事業系につきましては容器包装リサイクル法や家電リサイクル法が施行され、リサイクルのコストを排出者である事業者が自ら負担していくという時代の流れの中で、製造・流通・販売に関わる事業者も、リサイクルコストの負担のあり方をさらに考えていくべきではないかと思えます。廃棄物の処理という考えの延長線で、これまで税金で負担してきたコストについての事業者責任の徹底など、どこがどう分担していくのかということが、これから大きなのではないかと思っております。

江尻 日本中の市民団体や集団回収

の団体で一生懸命集めているけれど、なかなか回っていかないという話や、業者さんはこういうコストがかかってこうなんだけれども、実は全然商売になっていないという話をうかがって、「どこも同じような状況で、本当に困ったなあ」というのが私の率直な感想です。ということは、経済原理だけでは動かない、リサイクルにかかるコストを誰がどれだけ負担していくのか、もう少しきちんとした議論がなされないといけないだろうと思います。

須長 お互いの分担をはっきりさせて、ゴミを増やすことが損になるという形に持っていけば、資本主義経済下でもうまくいくはずだと思います。行政にもルールをもう一度見直して促進していただきたい。私の推定では、約二〇万トン程度が焼却炉の中で立ち消えになっていると思います。それを処分するために莫大なお金をかけて焼却炉をたてているのが市民の税金の現実の使い方、緊急避難が避難ではなくシステムになってしまふ。お金を使うのだったら焼却炉に使うよりも、焼却炉がいない社会作りに使ったほうがいいのではないかと思っていますが、なかなかそうはいかず、目の前のゴミの

ためにお金が出ていってしまふ。そういうふうにと考えると、限られた市民のお金をもっと有効に民間経済として使えることをしませんかと呼びかけたい気持ちです。

山本 もう一言ずつコメントをいただいて終わりたいと思います。

坂口 市民が生活した中からゴミが出てきているわけです。市民は環境保全に関しては、加害者であり被害者であるということを、しっかり認識しましょう。

菱川 先日、生徒にアンケートを取ってみました。五八八人の回答があったのですが、「この紙は古紙〇〇％配合です」という表示をみたことがありますか」という問いに対して、「はい」と答えた人は約八〇％でした。「古紙配合した製品を使っていますか」という問いには七〇％、しかし、「自分が紙製品を買うとき古紙を配合した製品を買うようにしていますか」という問いに「はい」と答えたのはわずか一五・六％、認識と現実に差が出てくるというデータでした。生徒は古紙が集められた後どうなるかほとんど知りません。一〇％ぐらいは「知っています」という答えがありました。私もこういう会に参加したり、学習する機会があるからわ

かりますが、こういう紙がこのように生かされるからこの禁忌品が入ってはだめ、というように、目に見える形でもう少し啓発していく必要があるのではないのでしょうか。もちろん学校教育の中でもやりますが、やはり減量化を推進する行政でもっとPRしていただけたらと思います。

道徳の時間に、「環境破壊をしたのは僕たちじゃなくて大人たちなのに、なぜ僕たちに二一世紀の地球を大切になんて言えるのか」と生徒に指摘されました。まさにそうだと思います。学校で古紙を回収することは、机上で勉強するよりはるかに効果があります。私が子どもの頃、祖母が靴下のほころびを直す姿を見て、ものを大切にするのが身につきました。その当時、環境教育という言葉はありませんでしたが、それが環境教育だったわけです。学校で古紙の回収をしているのもまさにそれです。日常の生活の中で行われていることを、子どもたちが見て自然に学んで生活の一部になっていくことが非常に大切だと思います。そのためには、私たち大人が生活の中で手本を示していかなければいけません。それぞれ専門の立場でフルに力を発揮して、資源問題を解決していきたい

と思います。

斉藤 回収業者の立場としては、団体登録されている団体さんがすべて資源回収に協力していただくようお願いしていきたいと思っています。また、集団回収という形で回収できないも



のについては、いろいろな回収方法を提案していきますので、市民の皆さまのご協力をぜひお願いします。今、各区でセンターリサイクルを始めていきたいと思っています。

須長 この二年間、古紙の余剰で出口がないということで大変お騒がせしました。これからの二年間は古紙が足りないのです、ぜひよろしく願います、と言いたいわけがそんなふうですが、経済行為ということはそういうことだと思います。ほしいときにほしい。余っているときには余っている。今後は、行政と市民、そして中間にいる私たち事業者の三者のうちどこかが一方的に負担しているというのではなく、横浜市資源リサイクル事業協同組合を中心に、横浜市を「ゴミを出しやすい町」ではなく、「ゴミの出しにくい町」に変えていけるようにしたいのではないかと思います。横浜市に引っ越してきて、ゴミの出し方が楽になったということがあるようにして、その結果としての資源のリサイクルが経済行為として成り立つようにしていかないといけないと思います。

石川 皆さんのご指摘を受けてまして、少しでもゴミを減らして資源化ルー

はもっと分別排出を徹底するよう呼びかけていきます。また相当量混入している資源物は、資源化ルートに乗せるシステムも含め、現在、回収業者・問屋・製紙メーカーの方々と一緒に検討している『循環型社会システム検討委員会』での議論など、何らかの対策を考えていきたいと思っています。

江尻 私も学校の現場にいた人間ですが、学校というのは思った以上に紙をたくさん出すところで、当時の横浜市内の高校では全部燃やしておりました。マル秘文書が多いからということでしたが。今は小型焼却炉が使えない時代です。併せて資源のことを考えるならば、燃やすという行為はよかったのかと、一〇年以上たった今、横浜の地でしみじみと感慨深く振り返りました。

集団回収に関しては、新しい仕組みが生まれつつあって、これが今みんなで作ろうとしている循環型社会に向かっていく途上だという実感がありません。事業者と市民と行政が手を取り合って意見交換をしながら、議論を積み重ねていく必要があるにあると思います。市民側から言えば、業界の事情がわかっていません。しかし、資源回収業界がつぶれてし

第5回 RDフォーラム アンケート結果

今回のフォーラムの参加者は一三〇名、会場で行ったアンケートにはそのうち六四名の方が応えてくださいました。その一部をご紹介します。

1. 集団回収に参加していらっしやいますか？ はい：九二% いいえ：八%

2. 集団回収は必要だと思いますか？ はい：九八% 無解答：二%

3. 集団回収が必要だと思う理由は？
(お答えの内容に従い五つに分類)

A. 資源として活用できるから

・古紙回収の有効な窓口になっている。

・なにもかも燃やされるゴミにすることが避けたいから。

・品目別に分けて回収・資源化するには、

集団回収でないと無理だと思う。

B. 町内会・社会と繋がりができるから

・年をとった人若い人たちが話し合いで活動するから会話が生まれる。

・地域内の繋がりができる。

・これからやっていくとき会話が生まれるようにしたいと、再認識しました。地域との繋がりが広くなると思います。

C. 環境教育・子どものため役立つから

・子どもに対する環境教育の場として有効だと考えている。

・多少なりとも子ども会の費用として利

用できるためありがたい。

・子ども会の教育にもなるし、皆が参加しやすい。

D. リサイクル意識を高める効果があるから

・回収意識の向上をはかることができ効率的な回収ができる。

・「リサイクル文化」を作って行くための最も基本的な活動であると思う。

・リサイクル意識を育てるため必要。

E. その他

・毎月一回の回収は生活の一部です。回収は必要です。

・分別を強化するほど、集団回収がより必要となる。

・現実問題として、市民としては出し方の選択肢がないということがあるので「必要」かどうかと問われたら「はい」と答えるしかない。

・ゴミの集積所の確保が困難になっている。そのためにはゴミの減量は必要であり、資源となるものは大切にしなければならぬ。

・回収に要するコストの低減に役立つ。

4. 集団回収は今後どうなっていくでしょう？ また、どんな形になっていくべきでしょうか？

▼どうなっていくか

・コミュニティセンターを拠点として子どもが中心になって行う。

・今まで通りでいいと思う。

・今よりもっと盛んになると思う。

・ゴミ問題はますます深刻な問題になると思う。ゴミの減量のためにリサイクル

まったく今の日本はダメになってしまふという思いが強くあって、私は思い切って多摩地域のリサイクル事業者の連合会事務局を引き受けました。この業界に生き残ってもらいたいですし、それが日本らしい循環型社会を作っていくことになると思うので、大いに情報を出し合って議論をしていきたいと思っています。

山本 最後に私の個人的な意見を申し上げさせていただきますと、ふつうお客さんはお店の懷まで考えて買物をしません。しかしこの業界においては、末端のお店だけではなく、その後ろの間屋さん、さらにその後ろに控えるメーカーの懷具合まで考えて市民が協力したらい、ということをお話ざるを得ない状況にある。それには、いい面と悪い面の両方があるような気がします。

リサイクルというのは誰かが一方的に責任をとるものではないのですが、他方で業界側から消費者に対して、もっとわかりやすく説明すべきでは

ないかという気がします。そういう意味では、まだ市民が納得できる仕組みになってないということで、その辺がひとつの課題でしょう。ぜひいろいろな仕組みを、業界側から提案してほしいと思います。

奨励金があっても個人の懷に入るわけではない。経済性だけでなく心意気でやっている部分がかなりあるから、集団回収の仕組みは支えられているはず。そういう心意気をお互い持ち続けるにはどうしたらいいか。集団回収のもう一つの意義みたいなものを、もう一度みんなで見つめ直すということも必要だなあと改めて感じています。

(構成/よしのたかこ)



できるものについての地域の意識向上を図り、市民全体が話し合い、対応・方法を真剣に考えねばならない。

・少子化・高齢者関係に伴い減少していくだろう。自治会を通して啓蒙活動を活発化し、回収活動をもっと拡大していく必要がある。市民全員で取り組むべき課題である。

▼どんな形になっていくべきか

(内容に従い四つに分類)

A. 分別を強化する

・今、私たちの町では自治会単位で回収していますが、もっと分別してほしいと思います。それを私たちが担当してよりやりやすくしなければと思っています。

・集団回収にも分別の強化徹底が必要。持ち出す側がより慎重な対応を。

・ドイツのゴミ事情を聞くと大変行き届いたやり方とのことで、もっと日本も細かい分別法が考えられるとよいと思う。

B. 行政の関与が必要

・集団回収—回収業者—問屋—地方自治体だけでなく、国ももう少し関わるべき。民—民だけではどうしようもない。

・回収する資源の種類を拡大し、市場原理に基づく集団回収システムを拡大すべきだ。流れをつくるため、呼び水程度の公的資金投入が必要では。

・たとえ集団回収が赤字事業になることがあっても、資源を守るということで続けてほしい。公共事業とすることも考えられます。なれど逆有償は困りますが。

・行政とリサイクル組合が一体になって集団回収を進めなくては成果が上がらないのでは。行政はもっと力を入れるべき。

C. 新たなシステム作りが必要

・集団回収を義務感で行うのではなく「ゲーム感覚」で楽しくワクワクしてできるような仕組みが作れるといいと思う。

・町ごとにゴミ回収スペースを設置し、個人がそこに届けるようにする。

・回収拠点の確保が最も大事。手近な場所・手軽な方法で集められる場所を提供する仕組みを作る必要があるのでは。

D. 意識改革が必要

・市の回収がはじまってしばらくたち回収に出る量に変化があるように思います。意識が弱まって家庭ゴミとして処分されているのでは。もっと回収する回数と個人の意識を強くしていかなければと思います。

・集団回収の意義について理解を深めていくことが必要だと考えます。

・集団回収の必要性をPRする。・情報をしっかり伝えることによって地域との信頼関係を作り上げていくことが必要だと思う。

・今までは(もしかして今も)「資源回収」という意識より、「資金集め」の意識の方が主です。できれば「資源回収」に重きをおけるようにしていけたらと思います。そのためにはモノがどのように回収されるかもっとよく見える形にすべきです。リサイクルに出したからよいというのはなく、どのように循環させているかの知識と意識を伝えるべき。

・ゴミ減量化・資源化に、自治会・町内会で取り組むべきである。子ども会などの資金集めも多少の目的としてよいが、ゴミを減らすことを第一とすべきです。

リサイクル 標準価格表

平成11年11月現在

品名	買入価格*	業者の売値 11/25 日経新聞
新聞	1kg *** 0円	1kg 4.5~5.5円
雑誌	1kg ** - 3円	1kg - 1~0.5円
段ボール	1kg ** - 3円	1kg 1.5~2.5円
衣類くず	1kg ** - 3円	1kg 3円
アルミ缶	1kg *** 10~15円	

* 集団回収には「買入価格」が適用されます
 ** 有料となります
 *** 有料となる場合があります
 **** スチール缶などと選別済の価格です

★ この価格は500kg以上集団回収する団体のみに適用されます

また取引条件により、多少の変化があります
 ★ 事業所から発生したものは、集団回収の対象になりません。事業所ごとに業者と直接ご相談ください。
 ★ 集団回収以外の段ボールの回収には、1回3,000円以上の手数料がかかります。
 ★ 段ボールは必ず束ねて出してください



オフィス古紙 共同回収	アルミ缶 店頭回収	横浜橋通商店街 ダンボール回収	県機関 古紙回収事業
			
'99.10 参加企業11社 13,840kg 回収地域は横浜駅西口・ 新横浜の2か所	'99.10 市内スーパー等 103店舗 52,695kg (3,374,326缶)	'99.10 12,080kg	'99.9 117か所 82,490kg

リサイクルデザインは次号
(2000年1・2月合併号)より
ひとまわり大きいA4版
14ページになります。

これからも
どうぞよろしくお願いします。

月刊 リサイクルデザイン
No.64 (Vol.6)

発行日 1999年12月15日

発行人 中野聡恭

編集人 宗村隆寛

発行所

横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒220-0005

横浜市区南幸2丁目16番22号

金属ビル3階

TEL & FAX 045・316・5122

スタッフ

山岡秀明・武松昭男

杉山宜利・竹澤留美

イラスト いたうみき

編集・制作 よしのたかこ

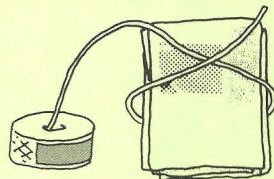
印刷 オリジナルプランニング

効率的に、ゴミを出さずにリサイクルするために、「小結くん」は生まれまわった。

今月は紙ひも「小結くん」を使って新聞紙をじょうずに結ぶコツ、教えるね。
 ひもはまず短い辺から先にかけるんだよ。それから、短い辺も長い辺も同じ1本のひもで結んでね。



新聞紙の四角をひじや腕を使って押しながら結ぶのがコツ。紙ひもはけっこう強いけど、ぐいぐい引っ張ると切れることもある。でもこうするとひもを引っ張らなくてもいいんだ。



小結くんの技、伝授します。

1巻 長さ90m	価格	送料
バラ売り	1巻 250円	1~6巻 400円 7巻~ 600円
箱売り (1箱50巻)	1~9箱 1箱 11500円 (1巻230円) 10箱~ 1箱 9500円 (1巻190円)	価格に 含まれます

お申し込み
お問い合わせ

横浜市資源リサイクル事業協同組合
☎045・316・4050 FAX 045・316・6050